

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目の数」

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通科 目	専門科 目	合計		
こども心理 学部	こども心理学科 (心理専攻)	夜・通信	4	0	10	14	13	
	こども心理学科(こども保育・教育専攻)	夜・通信			10	14	13	
	こども心理学科通信教育課程	夜(通信)	0	0	19	19	13	
モチベーション 行動科学部	モチベーション行動科学科	夜・通信	4	0	10	14	13	
	モチベーション行動科学科通信教育課程	夜(通信)	0	0	14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにおける「情報の公表」にて一覧表を公開している。  
<https://www.tokymirai.ac.jp/info/disclosure/courses.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 理事(役員)名簿の公表方法

ホームページにて公表 <https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	H28.4.1～R2.3.31	法務
非常勤	公認会計士	H29.4.1～R2.3.31	財務
非常勤	弁護士	H29.6.1～R3.5.31	法務
(備考)			

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人 三幸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><b>(1)授業計画書(シラバス)の作成過程</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの作成依頼                     <p>10月に次年度開講科目及び担当者が決定した後に各授業担当者に対してシラバスの作成を依頼する。(シラバスの作成依頼にあたって、作成要領及び作成方法について作成例を配布して具体的に示している。)</p> </li> <li>・シラバス原案集計及び相互チェック                     <p>集計したシラバス原案を本学教務委員会の責任の下、専任教員で分担し、書式及び記載内容について相互チェックを行う。</p> </li> <li>・1月、シラバスチェック結果を授業担当者に返却し、修正の依頼を行う。</li> </ul> <p><b>(2)授業計画書の作成・公表時期</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月中上述(1)において依頼した修正結果を反映させたシラバスの作成を全授業担当者に対して依頼。作成については本学シラバスシステムへの直接の入力によって行う。</li> <li>・2月末日をもって作成を締切り、作成未了者に対して最終確認を行い完了次第、3月中旬に時間割表の公表、履修登録要項の公表に併せて、本学ホームページにおいて公表する。 なお、公表した内容は本学学生、関係者以外もホームページから閲覧が可能であり、キーワード検索によって希望する科目のシラバス閲覧が可能である。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページのシラバスページ (<a href="http://www02.tokymirai.net/syllabus/">http://www02.tokymirai.net/syllabus/</a>)に公表し、学生、大学関係者及び一般も閲覧が可能である。 また、本学ホームページにおける「情報の公表」ページ (<a href="http://www.tokymirai.ac.jp/info/disclosure/index.html">http://www.tokymirai.ac.jp/info/disclosure/index.html</a>)からも閲覧が可能である。</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

**(1) 評価基準**

本学における成績評価については、学則において「学生に対して授業の方法及び内容ならびに授業計画をあらかじめ明示し、成績評価の認定に関して当該基準にしたがって適切におこなうものとする。」と規定し、各学部履修規程において「授業科目の単位認定は、定期試験または授業期間中に実施した試験、あるいは定期試験の代替となるレポート評価及びその他による」と規定され、これに基づいて、各教科における評価の基準をシラバスに項目を設けて記載し、初回授業で学生に対して説明することとしている。

**(2) 評価方法**

- ・評価については、各学部履修規程において合格「S」「A」「B」「C」、不合格「E」「F」となっており、より客観性を維持するために授業担当者は100点満点の素点評価を行うこととなっている。なお、不合格の場合も学生の修学状況把握の意味から「E」到達度不足、「F」は履修放棄というように区分している。
- ・単位認定にあたっての必要要件として、授業回数の3分の2以上の出席を評価対象者の要件として全学部の履修規程に規定している。これは、出席状況は学習意欲を図る上での重要な要素であることから、すべての授業科目において厳格にチェックしており、各授業担当者は成績評価提出時に併せて欠席回数の報告を義務づけている。なお、欠席回数が許容範囲の5回に近づいた学生に対しては、授業担当者から報告があった場合に担当キャンパス・アドバイザー（以下CA）が適宜電話等で指導・確認を行っている。

**(3) 評価の確認**

成績評価を学生に開示した後に、成績に関する質問期間を設けて、成績に疑問のある学生に問い合わせの機会を設け、当該学生に授業担当者から成績に係る説明を文書により行い閲覧できる制度を設けている。なお通信教育課程においては所定の質問期間を設けていないが、担当CAを窓口として、メールや学生電話等で成績に関する質問を受け付けている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

**(1) GPAの算出方法**

本学では、「東京未来大学成績評定平均値に関する規程」を定め、GPAの算出方法や必要な事項を定めている。算出方法は以下のとおりである。

評点(GP) S(90～100):GP=4、A(80～89):GP=3、B(70～79):GP=2、C(60～69):GP=1、 E、F(0～59):GP=0
---

<p><b>学期 GPA(当該学期における学修状況及び成果)</b>                  (各学期に評価を受けた科目で出た GP×その科目の単位数の合計)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">その学期に履修した科目の単位数の合計</p>
<p><b>累計 GPA(在学全学期間の学修状況及び成果)</b>                  (各学期に評価を受けた科目で出た GP×その科目の単位数の合計)の総和</p> <hr/> <p style="text-align: center;">(その学期に履修した科目の単位数の合計)の総和</p>

**(2) 算出方法の公表**

- ・ GPAの意味及び算出方法について、入学時に全学生に配布する「学生便覧・履修の手引き」に項目を設けて記載し、入学時のオリエンテーションで説明している。また、本学ホームページの「情報の公表」において、学外にも開示している。
- ・ 学生に対しては、毎学期配布する成績通知書に学期 GPA、累計 GPA ともに記載しており、学生は各科目の成績と併せて確認することができる。また、成績通知書は保護者・保証人にも送付している。

**(3) GPA 値の活用**

- ・ 演習科目を選択する場合、GPA 値上位をもって配属を優先する。
- ・ 通学課程においては学期 GPA 値が 1.5 を下回った場合、その回数に応じて面談を実施し、修学指導のための資料として活用している。

1 回目	学生本人、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施する。同時に書面にて保護者へ報告する。
2 回目	学生本人、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施し、履修計画の見直しなど学習相談を行う。保護者へ報告するとともに、希望した保護者には面談に同席いただく。
3 回目以上	学生本人および保護者を交え、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施し、修学意思の確認を行う。修学意思がある場合には、履修計画を抜本的に見直すなど学習相談を行う。

**(4) 成績に係る個別指導及び状況の把握**

学生の個別の成績は、各担当の CA に共有され、個別な履修指導に資するほか、全体的な分布については、本学教務委員会において情報として共有されている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。 ・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。 <a href="http://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/requirement.html">http://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/requirement.html</a>
------------------	--

#### 4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

##### (1) 卒業認定に関する方針の公表

本学は、学則に大学、各学科の教育の目的を明記し、それに沿って学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。

このディプロマ・ポリシーは本学ホームページの「情報の公表」において公表しているほか、学生全員に配布する「学生便覧・履修の手引き」に記載し、入学時に新入生に対してオリエンテーションで教務委員が説明している。

##### (2) 学生が身につけるべき「学士力」の策定と公表(通学課程)

ディプロマ・ポリシーに加えて、具体的に卒業するまでに身につけるべき「学士力」を「汎用的スキル」と「専門的スキル」に区分し、学生に提示している。さらに授業科目において当該科目において身につけることのできる「学士力」をシラバスに項目を設けて明記し、単位授与にあたってのひとつの指標としている。

##### (3) ディプロマ・ポリシーに沿って充足すべき卒業要件の設定

学位授与方針に沿って、必要な知識・技能が身についたかを判定するために必修科目を設定している。また科目区分ごとの最低修得必要単位数を定めて、各専攻・学科の定めるディプロマ・ポリシーに沿った必要な知識・技能バランスを確保している。

これらを総じて卒業要件単位数として設定し、この卒業要件を充足していることが学位授与に不可欠となる。これらの要件も本学ホームページ及び学生全員に配布する「学生便覧・履修の手引き」に記載し、入学時に新入生に対してオリエンテーションで教務委員が説明しているほか、適宜担当のCAが個別に指導している。

##### (4) 卒業研究・卒業論文の厳格な審査の実施(通学課程)

本学では4年間の学びの集大成として、全学部において「卒業研究」または「卒業研究・卒業論文」を4年生最後の必修科目として位置づけている。

この単位修得は、本学の卒業要件のうち必要な知識・技能の修得、作成プロセスにおける意欲や態度などをひとつの成果物として作り上げていく過程であり、この評価をもって東京未来大学のディプロマ・ポリシーに照らした学位授与認定の大きな判断材料であり、すべての要素が集約されている。

当然、その評価は卒業に直結するものであり、以下のとおり厳格に審査を行っている。

- ・主査、副査の審査による厳格性と専門性の確保
- ・卒業論文発表会の実施とその評価による公平性の確保

##### (5) 卒業認定手続き

卒業認定の可否は、本学学則に沿って各学生個々の単位修得状況(必修科目及び区分ごとの最低修得単位数)の個別な審査と修業年限の確認を教授会において審議して学長が決定している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

- ・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。
  - ・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。
- <http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf">https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf</a> 33 ページ～34 ページ
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf">https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf</a> 30 ページ～33 ページ
財産目録	<a href="https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf">https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf</a> 35 ページ
事業報告書	<a href="https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf">https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf</a> 10 ページ～26 ページ
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf">https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf</a> 37 ページ

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ「自己点検・評価」にて公開 <a href="https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/self_evaluation.html">https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/self_evaluation.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の2第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	こども心理学部こども心理学科心理専攻
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	心理学の基礎的概念を修得しながらこども心理学の理論や方法論に依拠した科学者－実践家モデルを基盤に、子どもたちの健全な成長・発達・学びを促すための理論的理解と実践力を養い、「高度な専門的知識と技能」とともに「豊かな心」を併せ持った人材を養成する。
卒業の認定に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心理を中心に、学士として十分な心理学の専門的知識・技能を修得している。</li> <li>・教育・保育・福祉領域などにおける心理職としての専門的な知識を有し、実践的な力を発揮することができる技能を修得している。</li> <li>・実社会で活躍できるような、本学の定める学士力を十分に修得している。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の様々な領域における知識や技能を学ぶ。</li> <li>・心理学以外の分野の学び、また、地域などとの関わりをとおして、人間理解を深める。</li> <li>・本学の定める学士力(人間性や心の豊かさを培うスキル)の形成を目指す。</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針(公表方法:「学生募集要項」掲載及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心や発達に関する事柄について興味・関心を有し、幅広い内容について心理学的観点から理解することに積極的であること。</li> <li>・積極的に人と関わり円滑に対人関係を構築することに意欲的であること。</li> <li>・教育・保育・福祉機関をはじめとする学外の様々なボランティア活動を通して、学び社会貢献することに積極的であること。</li> <li>・上記を実現するにふさわしい学力・知力を備えていること。</li> </ul>

学部等名	こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	未来を担う子どもたちの健全な成長・発達・学びを促すために必要となる、子ども理解に根ざした「高度な専門的知識と技能」とともに「豊かな心」を併せ持った人材を養成する。授業および実習を通して理論的理解と実践力を併せ持った保育者・教育者を養成する。
卒業の認定に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の健全な発達についての高度な専門性を発揮できる職種である、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、福祉職種に向けた職能を修める。</li> <li>・上記職種に限らず、家庭との関わり、環境や文化との関わりの中で育つ子どもに関する専門的知識・技能を利活用できる就業力を修める。</li> <li>・本学学士力(人間性や心の豊かさを培うスキル)を修得し、実社会に貢献する</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども理解に根ざした教育・保育・福祉に関する体系的・実践的な知識・技能を学ぶ。</li> <li>・子どもの「育ち」と家庭や社会、環境や文化との関わりについて理解を深める。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学学士力(人間性や心の豊かさを培うスキル)を形成する。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:「学生募集要項」掲載及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での学びの基礎となる学力を有する人</li> <li>・様々な事柄に興味・関心をもち、自身の経験や知識と関連付けて学ぶことができる人</li> <li>・自分の考えを適切に表現し、他者理解をもって人間関係を構築することができる人</li> <li>・心身ともに健康であり、積極的に行動できる人</li> <li>・未来に希望をもち、子どもや保育・教育に関心をもっている人</li> </ul>

<p>学部等名 こども心理学部こども心理学科通信教育課程</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>日本の未来を担う子どもの豊かな成長を、家庭、学校、地域社会、および、それらをとりまく文化との相互関係という視点から捉え、単に知識や技能を習得するにとどまらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学士にふさわしい教養と、子どもの健康な発達や育て方、臨床的課題やそれらへの介入法など、子どもに関する心理、保育、および教育の領域における専門的知識や技能を十分に修める。</li> <li>・子どもや彼らをとりまく人間、環境との関わりを研究し、理解する理論と方法を修得する。</li> <li>・得られた資格に係る、専門的知識や技能を修得し、それらを適切に社会で用い、貢献できる準備をする。</li> <li>・子ども産業をはじめ、多様な職業において、社会に貢献できる知識と技能、人間性を形成する。</li> <li>・本学学士力(人間性や心の豊かさを培うスキル)をよく修得する。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「こころ」の発達過程と特性に関する基礎理論、および、子どもの心理を理解し、健康な心を養うための最新の実践的手法を学ぶ。</li> <li>・健全な発達を担う「子育て」および「教育」に関する高度な専門的知識と技術を養う。</li> <li>・子どもの健全な成長・発達に必要な環境条件や文化について理解を深め、社会で幅広く活躍できる応用力を身につける。</li> <li>・責任ある社会人にふさわしい教養と、社会的知識・技能を身につける。</li> <li>・本学学士力(人間性や心の豊かさを培うスキル)を涵養する。</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>こども心理学部では、本学部の教育の目的を実現する資質のある学生を選抜するため、子どもの豊かな成長や心の発達に強い関心を持ち、高度な専門的知識や技能の習得に高い意欲を有するかを重視する。また、心理・教育等の現場において、本学部で学んだ知識や技能を発揮して、子どもの心に寄り添った実践活動を行うとともに、生涯にわたって学び続ける意欲を備えた学生を幅広く受け入れる方針である。</p>

学部等名 モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開( <a href="http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html">http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html</a> ))
社会で必要とされる、「組織成員として組織の健康な発展に貢献するモチベーション」、「他者を理解し円滑な対人関係を志向するモチベーション」、「広い関心と学びへのモチベーション」を学び、理解することにより、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化を促すことができる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開( <a href="http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html">http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html</a> ))
<p>大学の教育目的を実現するため、モチベーション行動科学部では、心理・コミュニケーション、経営、教育の3領域にわたって専門的な知識と技能を修得し、社会に貢献しうる人材を育成します。卒業までの学びの到達目標は、学部で定めた「学士力」に基づき以下の通り設定している。</p> <p>(1)個人をみつめる力を身につけること 客観的な視点で人間行動を理解し分析することができ、モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識に基づいた行動をとることができます。</p> <p>(2)他者と関わる力を身につけること 他者を肯定的に理解することができ、他者との円滑な対人関係を構築できる、高いコミュニケーション能力と対人関係スキルを身につけています。</p> <p>(3)組織を動かす力を身につけること 集団・組織の中で自分の立場を理解し、円滑な集団・組織運営に貢献できる、専門知識、データ分析力と洞察力を身につけています。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。( <a href="http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html">http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html</a> ))
<p>1. 教育内容</p> <p>(1)一般教育科目では、社会・文化・自然に対する視点や考え方を育てることを目的とする教養科目、憲法、体育、情報、語学を学びます。英語においては習熟度に基づいたクラス編成を行い、学生自身の理解度と学習進度に合った授業を行います。</p> <p>(2)専門教育科目は、心理・コミュニケーション、経営、教育の3科目群で構成されています。このうち、学びの基盤となるのは心理・コミュニケーション科目群です。この科目群に置かれた科目を学ぶ中で、モチベーション行動科学の基礎となる研究マインドやデータ分析に関する知識と技能、コミュニケーション・スキルを身につけます。さらに経営科目群、教育科目群におかれた科目を学ぶことで、各科目群が複合的に結びつき、広い視野での学びを可能にします。</p> <p>(3)キャリア科目では、学内外で社会に触れる機会を設け、知識・技能を実践に活かす力を身につけることを目的に、早い時期からのキャリア教育に取り組みます。</p> <p>(4)演習科目では、1年次から卒業時まで学生一人一人の学修を促進するために、基礎演習(1年～2年次)、専門演習(3年次)、卒業研究(4年次)を必修とします。また、単位には含まれませんが、学生は複数の専門演習やゼミに参加することも認められ(「ダブル・ゼミ」)、複合的な視点から学修を進めることができます。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(5)すべての科目においてアクティブ・ラーニングを採り入れた教育を行います。</p> <p>(6)授業内での課題やコメント用紙への記入、レポート課題の提出などで、学生の理解度を確認しながら授業を進めます。</p> <p>3. 評価</p> <p>(7)演習科目を含め授業における出欠は厳密に管理され、規程に定められた出席回数に満たない場合には評価のための試験を受けることはできず単位は修得できません。</p> <p>(8)学修の成果は、定期試験やレポート提出、日々の学修への取り組み状況をもとに、客観的に評価されます。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:「学生募集要項」掲載) 及びホームページ「情報の公表」にて公開。(http://www.tokyoimirai.ac.jp/feature/policy.html))</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校での教育課程を幅広く修得している</li> <li>・モチベーション行動科学部で学ぶことに強い意欲をもっている</li> <li>・豊かな発想力を持ち、主体的に考え行動することができる</li> <li>・人とよく関わることのできる対人関係能力・技能をもっている</li> <li>・困難や課題を乗り越えた経験をもっている</li> </ul>

<p>学部等名 モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科通信教育課程</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>社会で必要とされる、「組織成員として組織の健全な発展に貢献するモチベーション」、「他者を理解し円滑な対人関係を志向するモチベーション」、「広い関心と学びへのモチベーション」を学び、理解することにより、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化を促すことができる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>本学の教育目的を実現するため、モチベーション行動科学部では、心理・コミュニケーション、経営、教育の3領域にわたって専門的な知識を修得し、社会に貢献しうる人材を育成する。本学規程に定める期間在学し、以下の到達目標を身につけるべく学び、所定の単位を修得した者に「学士」(行動科学)が授与される。</p> <p>(1)個人をみつめる力を身につけること 客観的な視点で人間行動を理解し分析することができ、モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識を備え、所属する集団や組織、社会における成員の活動を促進することができる。</p> <p>(2)他者と関わる力を身につけること 他者を肯定的に理解することができ、他者との円滑な対人関係を構築できる高いコミュニケーション能力と対人関係スキルを身につけ、他者や社会とより健全な関りをもつことができる。</p> <p>(3)組織を動かす力を身につけること 集団・組織の中で自分の立場を理解し、組織行動に関する基礎的知識を備え、組織活性化や人材の育成に取り組むことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>本学部では、卒業認定・学位記授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる知識・技能の修得を円滑に進めることができるよう、教育課程を「一般教育科目」と「専門教育科目」に区分し、次のように編成する。さらに選択科目として「演習科目」を設置し、学生自身が関心のある領域を選び、各指導教員のもと総合的な力を養う。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1)一般教育科目では、社会・文化・自然に対する視点や考え方を育てることを目的とする教養科目、憲法、体育、情報、語学を学ぶ。</p> <p>(2)専門教育科目は、心理・コミュニケーション領域、経営領域、教育領域の3領域で構成される。心理・コミュニケーション領域では、モチベーション行動科学の基礎となる組織行動やモチベーション、リーダーシップに関する知識と技能、コミュニケーション・スキルを身につけ、さらに経営領域、教育領域におかれた科目を学ぶことで、各領域が複合的に結びつき、広い視野での学びを可能にする。</p>

<p>2.教育方法と評価</p> <p>通信教育課程の授業科目は、「テキスト科目」と「スクーリング科目」に分類される。</p> <p>(3)「テキスト科目」では指定の教科書と手引きを用いて学習し、Web上で試験を実施し学習の到達度を測る。学習を進めていく中での質疑応答は本学ポータルサイトを利用し教員・学生の相互コミュニケーションを可能とする。</p> <p>(4)「スクーリング科目」は指定日に通学し集中講義を受ける「対面授業」と指定期間中に動画を視聴しWeb上で試験を受ける「メディア授業」に分類される。「対面授業」では事前事後課題や授業内に実施される試験、「メディア授業」では視聴履歴や試験・課題提出を通じて総合的に評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。(http://corres.tokyoimirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))</p>
<p>大学の教育目的を実現するため、モチベーション行動科学部では以下のような人物を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチベーション行動科学部で学ぶことに強い意欲をもち、豊かな発想力で主体的に考え行動することができる人物</li> <li>・企業人や公務員、各種法人職員等として活躍しながら、モチベーションについて学ぶことにより、組織貢献を希望する人物</li> <li>・家庭環境や経済状況等により高等教育機会を逸しながらも、なお学びの熱意をもってその機会を求める人物</li> <li>・社会の一線を退き、家庭や地域コミュニティの中で生きつつ、その対人関係及びコミュニケーションの円滑化や活力の向上を求めて、学びに興味を抱く人物</li> </ul>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法:ホームページ「情報の公表」にて公開</p> <p><a href="https://www.tokyoimirai.ac.jp/info/disclosure/organization.html">https://www.tokyoimirai.ac.jp/info/disclosure/organization.html</a></p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数(本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
こども心理学部こども心理学科	—	19人	13人	15人	0人	0人	47人
モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科	—	8人	5人	2人	0人	0人	15人
こども心理学部こども心理学科通信教育課程	—	5人	2人	1人	0人	0人	8人
モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科通信教育課程	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
b.教員数(兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		175人					175人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法:ホームページ「情報の公表」にて公開 <a href="http://www.tokyoumirai.ac.jp/info/disclosure/teaching_infomation.html">http://www.tokyoumirai.ac.jp/info/disclosure/teaching_infomation.html</a>						
c.FD(ファカルティ・ディベロップメント)の状況(任意記載事項)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども心理学部 (通学課程)	280人	327人	116.8%	1,120人	1,225人	109.4%	0人	0人
こども心理学部 (通信教育課程)	75人	52人	69.3%	900人	1,005人	111.7%	300人	—人
こども心理学部 合計	355人	379人	106.8%	2,020人	2,230人	110.4%	300人	—人
モチベーション行 動科学部 (通学課程)	60人	75人	125.0%	240人	263人	109.6%	0人	0人
モチベーション行 動科学部 (通信教育課程)	20人	21人	105.0%	120人	147人	122.5%	20人	—人
モチベーション行 動科学部 合計	80人	96人	120.0%	360人	410人	113.9%	20人	—人
合計	435人	475人	109.2%	2,380人	2,640人	110.9%	320人	—人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
こども心理学部	212 人 (100%)	3 人 ( 1.4%)	198 人 ( 93.3%)	11 人 ( 5.1%)
こども心理学部 合計	212 人 (100%)	3 人 ( 1.4%)	198 人 ( 93.3%)	11 人 ( 5.1%)
モチベーション行動 科学部	32 人 (100%)	1 人 ( 3.1%)	30 人 ( 93.8%)	1 人 ( 3.1%)
モチベーション行動 科学部 合計	32 人 (100%)	1 人 ( 3.1%)	30 人 ( 93.8%)	1 人 ( 3.1%)
合計	244 人 (100%)	4 人 ( 1.6%)	228 人 ( 93.4%)	12 人 ( 4.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
こども心理学部 (通学課程)	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
こども心理学部 (通信教育課程)	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
こども心理学部 合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
モチベーション行 動科学部 (通学課程)	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
モチベーション行 動科学部 (通信教育課程)	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
モチベーション行 動科学部 合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(1) 授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シラバスの作成依頼 10月に次年度開講科目及び担当者が決定した後に各授業担当者に対してシラバスの作成を依頼する。(シラバスの作成依頼にあたって、作成要領及び作成方法について作成例を配布して具体的に示している。)</li><li>・シラバス原案集計及び第3者チェック 集計したシラバス原案を本学教務委員会の責任の下、専任教員で分担し、書式及び記載内容について相互チェックを行う。</li><li>・1月、シラバスチェック結果を授業担当者に返却し、修正の依頼を行う。</li></ul> <p>(2) 授業計画書の作成・公表時期</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2月中、上述(1)において依頼した修正結果を反映させたシラバスの作成を全授業担当者に対して依頼。作成については本学シラバスシステムへの直接の入力によって行う。</li><li>・2月末日をもって作成を締切り、作成未完了者に対して最終確認を行い完了次第、3月中旬に時間割表の公表、履修登録要項の公表に併せて、本学ホームページにおいて公表する。</li></ul> <p>尚、公表した内容は本学学生、関係者以外もホームページから閲覧が可能であり、キーワード検索によって希望する科目のシラバス閲覧が可能である。</p>
---

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(1) 評価基準</p> <p>本学における成績評価については、学則において「学生に対して授業の方法及び内容ならびに授業計画をあらかじめ明示し、成績評価の認定に関して当該基準にしたがって適切におこなうものとする。」と規定し、各学部履修規程において「授業科目の単位認定は、定期試験または授業期間中に実施した試験、あるいは定期試験の代替えとなるレポート評価及びその他による」と規定され、これに基づいて、各教科における評価の基準をシラバスに項目を設けて記載し、初回授業で学生に対して説明することとしている。</p> <p>(2) 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・評価については、各学部履修規程において合格「S」「A」「B」「C」、不合格「E」「F」となっており、より客観性を維持するために授業担当者は100点満点の素点評価を行うこととなっている。なお、不合格の場合も学生の修学状況把握の意味から「E」到達度不足、「F」は履修放棄というように区分している。</li><li>・単位認定にあたっての必要要件として、授業回数の3分の2以上の出席を評価対象者の要件として全学部の履修規程に規定している。これは、出席状況は学習意欲を図る上での重要な要素であることから、すべての授業科目において厳格にチェックしており、各授業担当者は成績評価提出時に併せて欠席回数の報告を義務づけている。なお、欠席回数が許容範囲の5回に近づいた学生に対しては、授業担当者から報告があった場合に担当CAが適宜電話等で指導・確認を行っている。</li></ul> <p>(3) 評価の確認</p> <p>成績評価を学生に開示した後に、成績に関する質問期間を設けて、成績に疑問のある学生に問い合わせの機会を設け、当該学生に授業担当者から成績に係る説明を文書により行う制度を設けている。なお通信教育課程においては所定の質問期間を設けていないが、担当CAを窓口として、メールや学生電話等で成績に関する質問を受け付けている。</p>
---

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
こども心理学部	こども心理学科 (心理専攻)	124 単位	⑦・無	一単位
	こども心理学科 (こども保育・教育専 攻)	130 単位	⑦・無	一単位
	こども心理学科 (通信教育課程)	124 単位	⑦・無	一単位
モチベーション 行動科学部	モチベーション 行動科学科	124 単位	⑦・無	一単位
	モチベーション 行動科学科 (通信教育課程)	124 単位	⑦・無	一単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法:

- ・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。
- ・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。

<http://www.tokyoimirai.ac.jp/info/disclosure/requirement.html>



⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考
こども心 理学部	こども心理学科 (心理専攻)	780,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 440,000 円 (2 年次以降) 230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	こども心理学科 (こども保育・教育専 攻)	780,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 440,000 円 (2 年次以降) 230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	こども心理学科 (通信教育課程)	156,000 円 別途、 スクーリング料 ／単位 (講義・演習科目) 7,000 円 (実技・実験科目) 10,000 円	30,000 円	0 円	
	こども心理学科 (通信教育課程) 編入	156,000 円 別途、 スクーリング料 ／単位 (講義・演習科目) 7,000 円 (実技・実験科目) 10,000 円	50,000 円	0 円	
モチベー ション行 動科学部	モチベーション行 動科学科	840,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 440,000 円 (2 年次以降) 230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	モチベーション行 動科学科(通信教 育課程)	156,000 円 別途、 スクーリング料 ／単位 (講義・演習科目) 7,000 円 (実技・実験科目) 10,000 円	30,000 円	0 円	
	モチベーション行 動科学科 (通信教育課程) 編入	156,000 円 別途、 スクーリング料 ／単位 (講義・演習科目) 7,000 円 (実技・実験科目) 10,000 円	50,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 学習面のフォロー役として、クラス担任を配置 主に学習面でのフォローを担うのがクラス担任である。科目の履修方法や学習の仕方など親身にサポートをしている。</li><li>• 履修登録にあたって オリエンテーションの際、履修登録方法やカリキュラムなど様々な説明を行う。なお、2年次の秋学期以降については、担当 CA が、個別に前学期までの成績と対比しながら今後の履修科目のアドバイスや相談を受けている。</li><li>• GPA 値の活用 各期の GPA 値が 1.5 を下回った場合、下回った回数や欠席日数に応じて、学生本人および保護者、担任／ゼミ教員および CA が面談を実施し、修学意思がある場合には、履修計画を抜本的に見直すなど学習相談を行っている。</li><li>• オフィスアワー制度の導入 学生が気兼ねなく教員の研究室を訪問しやすいように、「この時間なら大歓迎ですよ」という相談タイムを設け制度化している。教員は腰をすえて相談や質問に応じている。</li><li>• ピアサポーター制度の導入 先輩が、授業の受け方や履修登録の仕方、課外活動や、アルバイト、一人暮らしの疑問など、新入生が大学生活を送るうえで分からないことや困っていることがある時に、耳を傾け、共に考え、アドバイスを伝えている。</li></ul>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 進路・生活面での相談役として、CA を配置 毎日の学習や就職など、不安や悩みがあるとき、相談相手になる。CA の役割は多岐に渡る。個人ごとの目標の設定から、その目標を実現するための計画やアドバイスなど、入学から卒業まで成長をサポートしている。</li><li>• キャリアセンター、保育・教職センターで進路に合わせたキャリアサポートを実施 就職や進学、資格やインターンシップ・アルバイト・ボランティアに関する情報を提供している。また、各種対策講座、キャリアガイダンスを実施している。また、CA・担任・ゼミ教員・各センター教職員がチームを組み、進路に関する個別サポートを行っている。</li><li>• 担当CAによる面談の実施 1年次より学期ごとに、年2回、4年間、実施している。</li></ul>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 特別な配慮の申し出 疾病・負傷中又は障害のある学生においては、特別な配慮を希望する場合は、診断書等をもって、担当 CA に相談することができる。</li><li>• 定期健康診断の実施、保健室の設置</li><li>• 学生は団体保険に加入</li></ul>

・学生相談体制の整備

CA や担当教職員が、本学の全学生・保護者・保証人を対象に、学生生活における学習や人間関係に関する事など、様々な相談を受付けている。また、友人関係、大学教員や職員との人間関係などに係る問題、ハラスメントやその他の学内での苦情に関して、お話を伺い、必要な情報の提供やアドバイスをしている。

また、学生相談室の学内心理カウンセラーが、うつ状態や不安感など、主に心理的な問題のカウンセリングに関して対応している。

・ハラスメントの対応

ハラスメントに関する相談窓口を設け、連絡を受け次第、委員会を置き、相談・助言・救済等を受けられるようにしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法:ホームページ「情報の公表」にて公開

[https://www.tokyoimirai.ac.jp/info/disclosure/researcher\\_directory.html](https://www.tokyoimirai.ac.jp/info/disclosure/researcher_directory.html)